第４１回 中四国精神保健福祉士大会

愛媛大会のご案内

日時	２０２６年１０月３１日（土）～ １１月１日（日）
場所	松山市総合コミュニティセンター
主催	一般社団法人 愛媛県精神保健福祉士会 第４１回 中四国精神保健福祉士大会実行委員会

【開催のご挨拶】

2023 年 11 月愛媛県で開催した、第 58 回公益社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会・第 22 回日本精神保健福祉士学会学術集会は、私たち精神保健福祉士のミッションである『社会的復権』のあり様を再確認する機会となりました。

私たち精神保健福祉士は、拡大する職域や変化する社会環境の中で、誰のための何のための存在なのか、職能団体としての役割や社会的位置づけとしての責任は何かなど改めて見つめ直し、日々の活動を振り返りながら、ソーシャルワーク実践を継続していく必要があります。
大会全体を通して、皆様の実践における迷いや葛藤、工夫、課題を共有することで精神保健福祉士としての専門性を深め、明日からの進化した実践に繋げられる機会にしたいと考えています。

中四国精神保健福祉士大会は、等身大の学びや人材育成の場であり、顔のみえる関係性を築くことで、日々の実践を支える強固なアイデンティティを育む場となっています。また、９県が連携し、地域課題に向き合いながら、次の世代にバトンをつなぐことで、中四国から精神保健福祉士の存在意義を発信できればと思います。

中四国をはじめ、全国の皆さま、２０２６年 10 月 31 日（土）と 11 月 1 日（日）は、ぜひ愛媛へお越しください。

第 41 回中四国精神保健福祉士大会愛媛大会

大会長　菊地　健

【大会プログラム】

■ 10 月 31 日（土）

時間	プログラム内容
12：00 ～ 13：00	受付（キャメリアホール）
13：00 ～ 13：30	開会式
13：30 ～ 15：00	基調講演 講師：門屋 充郎 氏 演題：「精神保健福祉士の役割と専門性～ソーシャルワーク実践の再確認」
15：00 ～ 15：15	休憩

15：15 ～ 15：55	パネルディスカッション テーマ「 精神保健福祉士の専門性 ～ 当たり前の暮らしを紡ぐ、私たちが大切にしているもの ～ 」 パネラー：上野 凌河 氏、猪俣 隆子 氏、長谷部 隆一 氏
15：55 ～ 16：45	意見交換 ・コーディネーター：菊地 健 氏 ・助言者：門屋 充郎 氏
16：45 ～ 17：00	総括：門屋 充郎 氏
17：15 ～ 18：00	中四国連絡会
18：30 ～ 20：30	懇親会（ANA クラウンプラザホテル松山 4F ダイヤモンドボールルーム）

■ 11 月 1 日（日）

時間	プログラム内容
9：30 ～ 10：00	受付（各分科会会場にて受付）
10：00 ～ 12：00	分科会 ・分科会Ⅰ「若年層支援が描く未来～点と点をつなぐ精神保健福祉士の役割～」 ・分科会Ⅱ「仲間と育つ 続ける力と実践を支えるつながりと語り合い」 ・分科会Ⅲ「私たちは何者か 精神保健福祉士の原点」 ・分科会Ⅳ「過去から今を見る 未来の精神保健福祉士へつなげるバトン」
12：00 ～ 12：15	休憩
12：15 ～ 12：30	閉会式

【基調講演】

１０月３１日（土）１３：３０ ～ １５：００

演題：「 精神保健福祉士の役割と専門性～ソーシャルワーク実践の再確認 」

講師：門屋 充郎 氏（ NPO 法人 十勝障がい者総合相談支援センター ）

【基調講演の内容】

講師の門屋氏は、長年にわたり障がいのある方々と地域での支援を続けてこられました。「誰もが社会の一員として認められ、それぞれに合った生活環境を支える国家資格をつくりたかった」と語られています。この言葉は、精神保健福祉士が制度の担い手であるだけでなく、精神障がいのある方々を「生活者」として尊重する存在であるということを示しています。こうした視点に立ち、精神保健福祉士の役割と専門性についてみなさんと共に再確認していきたいと思います。門屋氏には、「精神保健福祉士の役割と専門性～ソーシャルワーク実践の再確認～」と題し、社会的復権の実現、日々の業務における役割の再確認、個々の目標設定、国家資格化の背景、当たり前の暮らしの実現に向けて、精神保健福祉士としてのアイデンティティの探求などについて話していただきます。

【講師紹介】

講師は 80 歳を超えて今なお現役で働いている精神保健福祉士です。帯広協会病院で出会った精神科医と 1969 年大江病院を設立、一時、東京の国立武蔵療養所に転職したが、1974 年大江病院に戻り精神病院 PSW として 22 年間働く。精神病院で働きながら、帯広・十勝圏域の精神科病院・行政等と連携し地域精神保健活動と地域生活支援を病院から展開。 1991 年地域生活支援拠点として帯広ケア・センターを開設。圏域内精神医療利用者の生活支援のために多様な生活資源開発と地域生活支援体制を作り、長期・社会的入院者は減り、圏域内病床は 1/3 に削減。1999 年 WAPR から世界のベスト・プラクティスに選ばれた。精神保健福祉士として地域で生活支援を行うためにケアマネジメントの開発に取り組み、全国で普及活動も行った。2005 年十勝障がい者総合相談支援センター開設、2009 年、日本相談支援専門員協会を創り初代の代表理事となる。2006 年保健文化賞、2007 年朝日社会福祉賞受賞。また、2009 年北海道地域ケアマネジメントネットワークを立上げ、「人を育て、人をつなぎ、地域を耕す」活動を実践してきた。一方、日本 PSW 協会の理事を長く続け 1982 年「札幌宣言」に関わり『社会的復権』を生涯の実践課題とした。業務検討委員長・機関誌編集長をし、資格制度委員長として精神保健福祉士の資格づくりをして 1999 年日本精神保健福祉士協会初代会長を務めた。現在名誉会員。

【パネルディスカッション】

１０月３１日（土）１５：１５ ～ １７：００

テーマ「 精神保健福祉士の専門性

～ 当たり前の暮らしを紡ぐ、私たちが大切にしているもの ～ 」

【パネリスト】

・上野 凌河 氏　（ 徳島県 / 医療法人敬愛会　凪の音ホスピタル ）
・猪俣 隆子 氏　（ 山口県 / 医療法人若草会　就労支援施設フィオーレ ）
・長谷部 隆一 氏（ 広島県 / 広島国際大学 健康科学部 医療福祉科/社会学科社会福祉学専攻 ）

【コーディネーター】

・菊地 健 氏（愛媛県精神保健福祉士会 会長）

【助言者】

・門屋 充郎 氏（NPO 法人 十勝障がい者総合相談支援センター）

【概要】

病院、地域、養成校、それぞれの立場から、精神保健福祉士の専門性～当たり前の暮らしを紡ぐ、私たちが大切にしているもの～をテーマに自分が大切にしている”精神保健福祉士としての価値・理念”について、現場の変化や多様性の中で感じている”しんどやさ”や”葛藤”それでも続けたいと思える”やりがい”” 楽しさ”明日からの実践につながる”メッセージ”などを話していただく。門屋氏の基調講演も踏まえ、パネラー間で意見交換を行いたいと思っています。あわせて、フロアからの質問や意見も取り入れながら、実践における課題や可能性について検討できるようなパネルディスカッションにしたいと考えております。

【分科会】

１１月１日（日）１０：００ ～ １２：００

分科会Ⅰ：「若年層支援が描く未来

～点と点をつなぐ精神保健福祉士の役割～」

座長（愛媛県）/ 実践報告 ３名

若年層が抱える生きづらさが発端となる引きこもりや孤立が深刻な社会課題となっています。いま求められているのは、点在する課題を「個人の問題」で終わらせず、社会へと繋ぎ直す支援ではないでしょうか。
分科会Ⅰでは、「教育機関」「医療機関」「行政」それぞれの立場からの実践報告を受け、会場の皆さんと共に、精神保健福祉士の役割に焦点を当て、これからの若年層支援のあり方を考える場にしたいと企画しました。
期待の大きさに反し、若年層支援に携わる精神保健福祉士はまだまだ少ないのが現状です。だからこそこの機会に、現場の取り組みを共有し、つながりを作る一歩にしましょう。支援の現場にいる方はもちろん、若年層支援に関心のある皆さんのご参加をお待ちしております。

分科会Ⅱ：「仲間と育つ 続ける力と実践を支えるつながりと語り合い」

対象：経験年数１～10 年目の精神保健福祉士 / 定員：30 名

形式：グループワーク

皆さんは、精神保健福祉士として悩んでいませんか？私たちは、日々の実践の中で、達成感や充実感を感じることもあれば、不安や葛藤、迷いを抱える場面も少なくありません。特に経験１～１０年の時期は、専門性を形成する時期であり、悩みを抱えやすくまた孤立しやすい時期でもあります。
この分科会Ⅱは、そうした経験年数の人たちを対象に、迷いや不安を抱えている精神保健福祉士が集える分科会にしたいと考えました。経験年数でグループ分けを行い、日本精神保健福祉士協会の認定スーパーバイザーにグループの進行をお願いする予定です。スーパービジョンに興味がある方も是非、ご参加お待ちしております。

分科会Ⅲ：「私たちは何者か 精神保健福祉士の原点」

形式：グループワーク

１日目の基調講演及びパネルディスカッションを受け、私たち“精神保健福祉士”の「専門性とは何か」「自分は何をする人なのか」を考え、共有するグループワークを行います。
当日、抄録集に同梱しているリフレクションシートと、当日お渡しするワークシートを活用します。頭ではわかっているけれど実現できていないこと、こんな自分でいいのだろうかと悩むこと、落ち込んだり反省したりするけど、「こうしたいと考えていたんだ、私」という自分に気づき、仲間と共有し、明日からの自分になにができそうか、前向きに考えられる機会にしたいと考えています。愛媛県大会おなじみのグループワークの分科会です！

分科会Ⅳ：「過去から今を見る 未来の精神保健福祉士へつなげるバトン」

話題提供者：宮本 彰 氏（医療法人おくら会 藤戸病院 / 高知県精神保健福祉士会会長）
形式：ワールドカフェ　/　定員：１００名

精神保健福祉士が国家資格化されて 25 年以上たち、職域や期待される役割も拡大・多様化しています。私たちが「当たり前の生活を送ることを守る」という実践を行う専門職であることは変わりません。しかし、業務に追われ、時代の流れと共に変化していく社会や制度の中で、私たちは当事者の「当たり前の生活」や「権利」を守ることができているのでしょうか。
分科会Ⅳでは、“精神医療国家賠償訴訟”についての話題提供を受け、その後、ワールドカフェの形式で、精神科医療の歴史を振り返りながら、私たちの役割を見つめ直す機会にしたいと思います。ついつい話してしまいたくなる“問い”をたくさん用意していますので、私たちの“今”を見つめて、未来に伝えたい想いを語り合いませんか？

【問い合わせ先】

大会事務局	第４１回中四国精神保健福祉士大会 愛媛大会実行委員会事務局 一般社団法人 愛媛県精神保健福祉士会
所在地	〒790-0878 松山市勝山町１丁目７番地 103-A
連絡先	電話：０８９－９０７－８０２３ FAX：０８９－９６１－１４３２
E-mail	unei-tyusikoku@ehime-psw.com

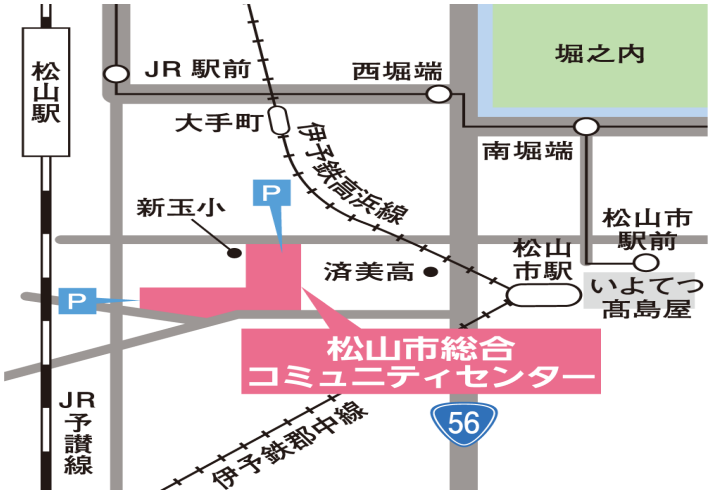
新着情報をお届け中

大会の新着情報は、随時「中四国大会の特設ページ」に掲載しています

✨ チェックをお忘れなく！

アクセス・駐車場・お問い合わせ

アクセス



松山市総合コミュニティセンター
〒790－0012　愛媛県松山市湊町七丁目 5 番地

TEL 089-921-8222

Google マップで見る

松山市総合コミュニティセンターへのアクセス方法

松山市駅から

伊予鉄バス（JR 松山駅前行）または（津田団地前行）約3分
└松山コミュニティセンター前で下車

JR 松山駅から

伊予鉄バス（久米駅前行）約2分
└松山コミュニティセンター前で下車

伊予鉄電車

高浜線（大手町駅）から徒歩約7分

ご来場のお願い　⚠ 駐車場に関する大切なお知らせ

駐車場には限りがございますので

できる限り公共交通機関をご利用のうえご来場ください。